

## 平成29年度東大阪大学柏原高等学校 学校評価

### 1 めざす学校像

学園訓の具現化を図り、知力の充実と豊かな心を育む人間教育を推進し、社会に有為な人材を育成する。また、時代の要請を常に把握し、全学園教職員の力を結集して、地域社会から必要とされる総合学園をめざす。建学の精神を堅持しつつ、進学を目指す生徒、就職を希望する生徒等、多様な生徒に対応する教育を推進し、生徒が学業やスポーツに励み、生き生きと活動する魅力ある学校をめざす。また、卒業生が誇りに思える学校、中学生が多数志望する学校、保護者が通わせたいと思う学校、地域に親しまれ愛される学校づくりに取り組む。

- ① 伸びしろのある生徒を多数受け入れて学力の向上を図り、進学・就職の実績をアピールできる学校
- ② 自己表現力、コミュニケーション力等の苦手な生徒が、安定した学習環境と充実した教育相談体制の中で生き生きと生活できる学校
- ③ 凡事徹底を推進し、生徒の生活規律を確立させて多様な進路実現を可能とする学校
- ④ スポーツに秀でた生徒を鍛え上げ、全国大会出場等の優れた競技実績を上げる学校
- ⑤ 学校活性化の志を強く持ち、生徒を愛し、生徒と向き合い、家庭とも連携してとことん面倒を見ていく教職員集団が形成されている学校

### 2 中期的目標

#### 1 学力向上とキャリア教育の深化・充実

- (1) 教科会議の定例化と指導方法の研究推進
- (2) わかる授業を目指した公開授業・授業公開、さらには授業研究会の確立
- (3) 総合的な学習の時間を活用した「進路研究」でのキャリア教育の推進
- (4) 生徒の学力実態と興味関心を踏まえた多様な進路実現が可能なカリキュラムの研究
- (5) 放課後学習や補充学習等の実践

#### 2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進

- (1) 生徒が集中して学べる学習環境の整備
- (2) 生徒の主体的な活動を育成するための生徒会活動の活性化
- (3) 学級経営を充実させ、学級集団の育成を図る
- (4) 挨拶、身だしなみ、頭髪、時間の厳守等の「凡事徹底」
- (5) 問題事象への迅速な対応と外部機関等との連携の強化
- (6) 生徒の実態のきめ細かな把握と転退学者「0」に
- (7) 相談機能の充実
- (8) 強化部の一層の飛躍と強化部以外の部活動の活性化

#### 3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上

- (1) 課題に応じた校内研修会の充実
- (2) 人事交流の促進
- (3) 地域との連携の強化
- (4) 外部人材の活用

### 【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 「あなたは本校の規則を守っていると思いますか」と「服装、頭髪、マナーなどの指導がきちんと行われていると思いますか」の2つの質問がすべての学年において賛成率8～9割ほど獲得し1位、2位を独占したことから、生徒たちの校則やマナーに対しての意識がよくわかる。いずれの学年の生徒も規範意識が早い段階から形成され、それが継続しており、うまく指導が行われている事が結果から伺える。</p> <p>そのほかにも「本校には他校にない特色があると思いますか」や「部活動は活発に行われていると思いますか」などの質問に対してもいずれも7割以上が賛成しており、本校の特色のひとつとして『部活動の柏原』のイメージが根強く生徒たちの中にあると言える。一方で授業の内容に対する理解や取り組みに対しても半数以上が肯定的な評価になっているものの全体としての順位はかなり下に位置しており、授業に対して苦手意識を取り払えるように工夫を凝らしていくことが求められている。また、最下位になった「図書館は充実していて利用しやすいと思いますか」は2割半ほどしか賛成がなく、うまく機能していないことをよく示している。</p> <p>○保護者 「本校では部活動が活発に行われていると思いますか」や「本校では服装・頭髪・マナーなどの生活指導がきちんと行われていると思いますか」はいずれもすべての保護者が賛成しており、保護者の間でも『部活動の柏原』のイメージや生活指導の丁寧さが高く評価されている。まさに凡事徹底の校訓どおりである。他にも「懇談会・進路講演会などは進路を考えるうえで役に立っていると思われませんか」「学校は、将来の進路や職業などについて、適切な指導を行っていると思われませんか」といった進路指導に対しても9割以上の賛成票が集まり進学、就職にも高い信頼を得ていることがわかる。他方で「教員は生徒の学力向上を図るため、指導方法の工夫をしていると思われませんか」については6割弱の賛成票で他と比べやや低め、生徒のアンケートでもあったように本校の課題として教員の教科指導力が浮き彫りになる結果となった。</p> <p>【分析】 全体的に生活指導において高い信頼と実績を残すことに成功しており、進学、就職に関する支援なども高い満足を得ていることがわかる。しかしながら授業そのものについては改善してほしいと思っており、教員の教科専門性や生徒の興味関心を引くための工夫がもためられている。ほかにも「相談や悩み事について話しやすいように配慮されていますか」や「担任の先生以外にも相談室などで気軽に相談できる先生がいると思いますか」は半数ほどの賛成で相談室をより効果的に利用することやチーム柏原で生徒たちに寄り添うことが求められている。</p>	<p>評価委員： 学識経験者(市内在住) 保護者代表(後援会会長) 元後援会役員代表 同窓会代表</p> <p>○「学校に登校するのは楽しいか」1年生の29年度1回目(7月)は「肯定」が特に高い(70.6%)2年生では1回目(7月)より2回目(3学期)が微増している。</p> <p>○「将来の夢や希望、進路を見据えた学校生活か」7割前後の生徒が自覚しているようだ。2年生は高い(82.2%)。高学年になって、現実に近い感覚があるなら喜ばしい。</p> <p>○「授業は丁寧、わかりやすく、楽しいか」年度や学年それぞれに肯定・否定が拮抗している。「わかる授業」を如何に研究して、取り組んでいくか、本校教師の課題でもある。難しいことだが、生徒は何がわからないのかを絶えず探求・自答し生徒とともに楽しい授業になると信じていることができるような環境づくりが大切だろう。本校では教壇に立つ教師に課されたこれからの大きなテーマである。</p> <p>○「選択科目への興味があるか」28年度の2年生には関心が高かったようだが29年度では、1.2年生とも「肯定」の伸びは少ない。とともに関心度が低い。「肯定」・「否定」とも5割である。</p> <p>○「選択科目は進路にプラスになるか」前問より肯定(関心)が高い。29年度に比べては微減している。</p> <p>○「選択科目は思っているような科目か」2年生のみ：「肯定」は約半数のみで53.3%。理解できにくい生徒もいるのではないかな・・・。</p> <p>○最後に、「生徒・(保護者)の意識調査」を分析して、過去4年間の中でも重要とされる本校の課題を示していく。</p> <p>①第1・2ベビーブーム時代に奉職した先生方の大量定年退職→多くの新任教師の採用が校風(その学校に培われて来た教育土壌)をどのように継承・発展させているのか？</p> <p>②学校教育環境整備のための校舎建て替えと教育課程の大幅な改定など、新しい学習環境の変化が、入学してくる生徒達をどの様に育てていくことがベターなのか？</p> <p>これらが直面している課題ではないだろうか。これから学校で生き抜く若い教師集団と中学校から進学してくる新しい世代の若者の生活感覚をどうつないでいくのか、今回の調査結果について私自身委員として、判断の難しさを感じた。生徒の意識感覚は先生方の指導力のバロメーターであり、指導の力量、共通理解の強さ・深さに係る。調査項目別に数字の動きを見ながら、短いコメントを書いていく内に以前とは違った違和感を覚えた。本校の校訓と生活指導の兼ね合いについて若い先生方も、その基本は理解しており生徒指導に取り組んでいると思われる。解説の中で、「過去1年間かけて学級生徒全員の家庭訪問した教師がいた」ということを書いたが、本校(村上学園)の教育理念の真髄はこのよう一人ひとりの地味な感覚の積み重ねから培われてきた。生徒や保護者が卒業式に参列したときに「この学校へ来てよかった」と思える3年間を過ごさせてあげたい。新しい校舎ができ、若いエネルギーにあふれた教師集団がいる。条件は整っている。過去の伝統にばかりこだわることが、最善とはいえないが、少なくともそのノウハウを理解して新しい時代に合った柏原の教育体制を構築していただければと思います。自己研鑽と仲間同士の議論を高めれば生徒達の意識も伝心していく。今回各「肯定」が低下した部分は教師集団で回復(改善)しなければならない。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とキャリア教育の深化・充実	(1) 授業の質的向上			
	ア) 授業の質的向上のための研究推進体制の確立 イ) 教員間で研鑽し合う体制づくり ウ) 学び直しの時間充実	ア) 教科会議を定例化し、指導方法や指導内容の交流や情報交換等を行い授業の質を高める実践を行う。 イ) 改革推進部が中心になり、授業公開や公開授業期間の設定を行い、授業を通じた教員間の交流を進める。参観して気づいた点などは、参観カードを作成し授業者に渡す。 ウ) 放課後学習の場(真-Navi Room)や「国」「数」「英」における基礎学力を学ぶ時間の設定を行う。	ア) 自己診断における教科指導や授業に係る項目 イ) 実施授業公開などでの参加者数及び自己診断の授業に関する項目の実績 ウ) 自己診断における放課後学習の場の活用項目	ア) 教科会議の定例化で、教科内での打合せがしやすくなり効果を上げている。進度の調整だけでなく、指導方法や内容等の研修をしている教科もある。 イ) 昨年度引き続き授業公開期間や全教科に取り組んだ。授業者や参観者双方にとって力量の向上につながっている。また、保護者の授業参観を11月に実施した。 ウ) 「真-Navi Room」の活用は第1学年が主として利用し、学習している。
	(2) 多様な進路選択への対応			
	ア) 進路未定者「0」を目指す イ) 就職内定率100%の継続を目指す。 ウ) 進路を見据えた選択科目の充実と研究	ア) 進路指導部と学年との十分連携・情報交換を強化する中で、一人一人の生徒の状況を把握し、共通理解を図り、計画的系統的な進路指導を行う。 イ) 企業や事業所とのつながりを維持しつつ、生徒の興味関心も把握し、コネクターを活用し、内定に至るまで指導を徹底する。 ウ) 選択科目開設4年目。関連科目をまとめ専門的に学ぶ系列化に取り組み、H30年度以降の進路につながる選択科目について研究を継続する。	ア) H29年度進路状況の実績 イ) H29年度就職内定状況実績 ウ) 自己診断の評価結果	ア) 大学(短大含む)進学 98名 専門学校進学 67名 就職(縁故・自営含む) 64名 公務員(警察官) 1名 (H30.3.31現在) イ) 学校紹介の就職希望者は50名(43企業)内定率100% (H30.3.31現在) ウ) 系列化と個別の講座選択との併用を行い、系列化全面实施の足がかりとなった。人気のある系列においては、コースの新設等さらなる発展を考えていく。
2 自己肯定感の育成と凡事徹底の推進	(1) 自己肯定感の育成			
	ア) 生徒が活躍できる場の設定 イ) キャリアアシストコースの充実 ウ) 退学者の「減少」	ア) 生徒会活動の活性化 生徒会が主体になった柏高祭(文化祭)の開催 学校説明会等での生徒会はじめ有志の生徒の協力、発表の場面の設定 宮滝(吉野)での野外活動及び集団活動による仲間づくりの実践 イ) 生徒サポート部の充実を図り、支援を必要とする生徒の状況把握と共通理解に努める。カウンセラー等、教育相談室との連携強化を図る。 ウ) 生徒へ状況のきめ細かな把握と家庭との連携強化を図り、転退学者を減少させる。	ア) 自己診断の評価結果 イ) アシストコースの自己診断項目の評価結果 ウ) 退学者数の推移 40人→49人	ア) 柏高祭では、2回目の新校舎での実施の中、生徒会が中心になり有志の生徒も含め企画運営をしており、金券の処理もトラブルなく終えていた。 イ) 自己診断から、約7割の生徒が学校に来るのが楽しいと回答している。中学校時に不登校であった生徒も多数在籍しているが、クラスの様子や自己診断から学校での生き生きとした姿が見られる。進路を考えて生活している生徒も8割を超える状況である。 ウ) 9名増加した。様々な理由で転退学者が出ているが、意欲を持たせる実践を通して退学者の減少をめざす。
	(2) 凡事徹底の推進と学習環境の整備			
	ア) 挨拶、時間の厳守等の凡事徹底 イ) 問題行動への迅速な対応と古い生活指導からの脱却 ウ) 静謐な学習環境の確立	ア) 登校時の立哨指導及び通学路指導の徹底 生徒への声かけ イ) 受容と傾聴という姿勢での生徒への対応に心掛ける。また、学年会議や補導会議で家庭環境も含めた生徒の状況把握をし、生徒理解に努める ウ) 空き時間の教員による校内巡回を含め、静謐な学習環境整備のため、指導に乗らない生徒への丁寧な対応を行う。	ア) 外来者の評価・自己診断の該当項目評価結果	ア) 自己診断の当該項目では80%~90%の生徒が肯定的に評価している。来校者からは、「よく挨拶をしますね」と褒めていただくこともしばしば。スポーツコース生が中心であるが、他の生徒にも定着しつつある。 イ) 空き時間を利用しての校内巡回に努めている。
3 学校の活性化と指導力等教員の資質の向上	(1) 校内研修の充実			
	ア) 各部等分掌の課題に則した校内研修の実施 イ) 授業を中心にした研修会の実施	ア) 「人権教育」「サポート部」「改革推進部」「入試広報部」等、月曜日に設定の校内研修で計画的に実施 イ) 各教科による公開授業研究会の実施	ア) 実施回数、研修内容 イ) 実施回数、研修内容	ア) 新たな内容の研修(選択系列について、基礎力診断テスト活用方法、生徒数確保について)が計画的、先進的に実施でき、教員の資質の向上につながっている。 イ) 全教科で公開授業が実施され、指導法や生徒の様子等、参観カードや教科会議等で、研究・交流することができた。また、授業公開期間を設定することにより、幅広く授業参観ができ、教員間の交流がより深まり成果があった。授業研究会や事例研修の実施が今後の課題となる。
	(2) 外部人材の活用と地域連携			
	ア) 専門学校や大学、企業等との連携と活用 イ) 教育活動への外部の人材活用 ウ) 柏原市・八尾市、自治会との連携 エ) 夏休み子ども教室の実施	ア) 進学ガイダンスや大学・専門学校・企業見学会等の実施 イ) 部活以外の教育活動への人材活用や選択科目・各教科の授業等への専門性の配置 ウ) 地域連携の分掌を設け、市や商工会、自治会との積極的な連携を図る エ) 地元小中学生の体験教室を行い、地域への貢献や地域との連携を図る	ア) キャリア教育にかかる自己診断結果と実施内容 イ) 人材活用状況 ウ) 市や商工会等実行委員会主催行事参加状況 エ) 開設講座 12講座 参加者 231名	ア) キャリア教育の一環として実施。多数来校有。 イ) 第1学年の総合的な学習の時間、2学年選択科目スポーツコース、アドバンスコース「進路研究」に外部の講師を招聘し、専門的な講話の実施。 ウ) 市民総合フェスティバルへの生徒会や部員の参加、地元中学生を文化祭へ招待する等、地元柏原市との連携を推進している。 エ) 保護者、体験参加者ともに良い意見を頂いた。来年度も実施の要望も頂き、継続する。